

冬の植物の過ごし方

玉川弘幸 (千葉市)

日 時 : 2024 年 2 月 11 日 (日) 10 時~12 時 天候 : 晴れ  
 参加者 : 18 名 (大人 9 名、子ども 2 名、指導員 6 名、他 1 名)  
 担当指導員 : 梅宮、玉川

好天气に恵まれ、絶好の観察会日和になりました。挨拶の後、事前に配布した資料に添って冬芽やロゼットに関する話をしてから観察会に移った。観察ルートは冒険広場から、市町村の森経由、展望台脇の花木園までとしました。観察ポイントは冬芽の形や色、つき方、芽鱗の有無や枚数、葉痕と維管束痕などの観察。高所で観察しにくい枝は、同行の指導員にフック付き棒で枝を手繰り寄せてもらい、いいポジションで観察できるように助けを借りた。まずは、マユミから観察開始。参加者は真新しいルーペを手に入れている。力の入れ様を感じられる。マユミの冬芽は水滴形で 7 枚ほどの芽鱗が見える。葉痕は半円形。枝に触れて4稜を感じてもらった。隣は、大きな丸い葉と房状に多くの花を付けるハクウンボク。長卵型の冬芽は裸芽で葉痕は0型で冬芽を取り囲む(葉柄内芽)。斜面に立つムラサキシキブ。冬芽に柄があり、枝先には果柄が残っている。冬芽は裸芽で 2 枚の葉が向き合う。維管束痕は 1 個で突き出る。庭木や街路樹にも利用されている、ハナミズキの花芽はユニークな玉ねぎ型。葉芽は円錐形で芽鱗が 2 枚向き合う。紅葉が美しいイロハモミジ。冬芽は水滴形でツヤがある仮頂芽が 2 個並ぶ。見える芽鱗は 3 枚。枝は日向側が赤く、反対側は緑色で、側芽の向きが 1 対 90 度ずつずれる。十字対生の話に、参加者の 1 人が興味を持たれた様子でした。市町村の森でも一際背の高いプラタナス。冬芽は大きな卵形。芽鱗は 1 枚で帽子状。葉が落ちるまで、冬芽は葉柄の基部に包まれる(葉柄内芽)。落ちていた枯れたプラタナスの葉の葉柄部分を冬芽に被せると、ぴったんこ。見上げると、枝先にピンポン玉大の実がぶら下がっているの見える。アジサイの冬芽の頂芽は裸芽で葉脈が見える。側芽には薄い芽鱗がある。葉痕はハート形で維管束痕は 3 個。枯れた装飾化が冬も残っている。花木園に向かう途中の日溜りでは、タンポポ、オオイヌノフグリ、ナズナ、ホトケノザなどのロゼットたちも花を付けていた。花木園ではベニバナトチノキから観察。頂芽は大きく銃弾のよう。正面からは 7 枚ほどの芽鱗が見える。葉痕はハート形で大きく、維管束痕は 7~9 個確認できた。芽鱗は粘液を分泌してべた付く。葉痕は十字対生する。下見の時にはまだ開花していなかったサンシュユの冬芽の先端が開き、黄花を覗かせていました。別名の春黄金花の方が相応しいのでは。ユリノキの冬芽はアヒルのくちばしのよう。葉痕は円形で維管束痕は多数がばらばらに散らばる。近くのレンギョウの花も咲き出しました。近くでソシンロウバイが甘い香りを放っていました。参加者からは、「野草が好きなので、春また来たい」「初めて参加したが、楽しかった」「樹木に名前入りのラベルを付けてほしい」などの声をいただきました。



・かわいい！冬芽たち



・プラタナスの落葉を冬芽にかぶせるとぴったんこ